

川崎医療短期大学

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS



広報誌 No.81

川崎医療短期大学
創立40周年記念号

歴代理事長・理事長挨拶



川崎学園創設者
川崎医療短期大学
初代学長 (S.48.4 ~ 49.3)

川崎 祐宣



川崎学園前理事長
川崎 明德

建学の理念

- 人をつくる
- 体をつくる
- 深い専門的知識・
技能を身につける

創立40周年を迎えて



学校法人 川崎学園
理事長 川崎 誠治

本学は学校法人川崎学園において、医科大学、附属高校に次ぐ3番目の施設として、昭和48年「人をつくる、体をつくる、深い専門的知識・技能を身につける」という建学の理念のもとに開設されました。当初は、第一看護科、第二看護科および臨床検査科の3学科で構成され、その後の学科増設や医療福祉大学との連携のもと、幾度かの改組・転換を通じて、医療・介護・保育系総合短期大学として発展し、さ

らなる組織強化を図っています。開設以来、時代のニーズに確実に応えつつ、他学の範として40年の歴史を刻み、平成25年度に創立40周年の今日を迎えたことは、この上ない喜びです。

顧みますに、創立40年とは、22歳で就職した人が還暦を超え、定年を迎えるほどの年月です。その40年の時を経て、建学の礎となっている「建学の理念」が疎かにならないよう気を引き締める必要があります。もちろん、時代のニーズに応えられる変化、適切な対応は欠かせませんが、根幹は、本学園独自の「人間をつくる、体をつくる、医学をきわめる」という理念です。これに則り、本学は川崎学園ネットワークを生かし、医療・福祉・保育の現場により密着した実習を充実させるこ

とで、本学の特長を最大限生かした他に類を見ない、質の高い実践教育が実現するものと思います。

さらに本学園は、職業人の養成を目的とする学校であり、学生に対してより魅力ある教育内容の授業を提供するため、教員は、常に教育(授業)改善を心掛け、カリキュラム等の見直しにも積極的に取り組むことが肝要と思います。特に医療・介護・保育系の学生には、正しい倫理観、道徳観を備えた人間形成の支援が必要不可欠であり、医療倫理意識や個人情報認識については、徹底した教育指導が極めて大切なことと考えます。

本学独自の建学の理念のもと、40年間にわたって堅実な発展を遂げ、これからも決して立ち止まることなく、社会から信頼される医療・福祉・保育を支える学校法人川崎学園の一員として、ひたすら前へ前へと進んでいかねばなりません。

創立40周年を記念し『「若きいのち」創立40周年記念号』が発刊されることになり、次の50周年に向けて新たな門出ができることは、誠に喜ばしく思います。まずは全教職員や学生諸君、そしてすべての関係各位に対して厚く御礼申し上げます。

歴代学長・学長挨拶



川上 亀義
(S.49.4 ~ 61.3)



望月 義夫
(S.61.4 ~ H.元.3)
(H.7.4 ~ 13.3)



岡田 政敏
(H.元.4 ~ 7.3)



守田 哲朗
(H.13.4 ~ 21.3)



今城 吉成
(H.21.4 ~ 24.3)

創立 40 周年を迎えて



川崎医療短期大学
学長 山口 恒夫

生みの親(創立者)である川崎 祐宣先生が、グランドデザインとして掲げた建学理念「人をつくる、体をつくる、深い専門的知識・技能を身につける」に基づいて、本学の学灯を点されたのは昭和48年(1973年)のことでした。早いものです。あっという間に月日が過ぎ去り、今年で創立40周年という節目を迎えることになりました。

このような節目を迎えるにあたって、これまでに記された本学

の“成長のアルバム”を辿ってみますと、どのような歩みが観られるでしょうか。先ず開学とともに誕生したのは第一看護科、第二看護科、臨床検査科の3学科でした。開学4年目(昭和52年)には放射線技術科と医療秘書科が、10年目(昭和58年)には栄養科と通信教育部医療秘書科が、それぞれ産声をあげました。次いで15年目(昭和63年)には医用電子技術科(後年、臨床工学科に改称)が、21年目(平成6年)には医用デザイン科が生まれ出ました。そして、28年目(平成13年)には介護福祉科(平成24年、医療介護福祉科に改称)が、32年目(平成17年)には医療保育科が誕生しました。

一方、このような“成長のアルバム”から、20世紀から21世紀にまたがる厳しい社会変革の流れが、医療・福祉・保育系の

分野にも押し寄せていることを感じ取ることができると思います。このような流れの中で、変革が求める不易流行のニーズに適確に応えるために、この40年間、本学は手を抜くことなく一步一步、必要な改革に取り組んでまいりました。その一つが学科編成の改革、つまり川崎医療福祉大学への改組転換(栄養科、医療秘書科、医用デザイン科、臨床工学科)と廃止(通信教育部医療秘書科、第二看護科)であったと思います。さらに、“成長のアルバム”からは、短期大学の冬の時代とも呼ばれる厳しい環境下で、本学が選ばれる大学としての地位を獲得すべく、常に独自性を打ち出し続けていることや、弛みなく教育力向上に努力していることを読み取ることができます。

さて、ここで40周年という区切りについて少しばかり考えてみましょう。私の頭にスーッと浮かんできたのは、孔子の「論語」に出ている「四十而不惑」という言葉です。もちろん「四十にして惑わず」の意味で、四十歳になると戸惑うことなく、知力や判断力が優れた状況になるという考え方です。本学の40周年を迎えるにあたってドンピシャの言葉ではないでしょうか。これからの本学の未来を考えると、これまでに私どもが刻んできた時の経験に基づいて、不惑の精神で大学の未来をしっかりと刻んで進むべきだと思います。



沿革 (2003年4月～2013年3月)

■2005 (H17) 4月1日

- ・医療保育科(3年制・入学定員70人)設置
- ・第二看護科募集停止
- ・介護福祉科入学定員を80人に減員
- ・保育士養成学校指定

■2005 (H17) 11月30日

- ・通信教育部(医療秘書科)廃止

■2006 (H18) 3月31日

- ・第二看護科廃止

■2006 (H18) 4月1日

- ・第一看護科入学定員を120人に増員
- ・6学科、収容定員1,180人
- ・教員免許課程の認定(医療保育科、幼稚園教諭二種免許状)

■2007 (H19) 4月1日

- ・第一看護科を看護科に学科名変更
- ・臨床工学科募集停止(川崎医療福祉大学へ改組)

■2010 (H22) 3月31日

- ・臨床工学科廃止

■2012 (H24) 4月1日

- ・介護福祉科を医療介護福祉科に学科名変更

【トピックス】

■2006 (H18)

- ・全学科制服統一
- ・外部階段屋根設置(卒業寄付&同窓会)

■2007 (H19)

- ・短期大学基準協会による第三者評価の結果、適格認定を受ける
- ・AO入試開始

■2010 (H22)

- ・学生食堂・軽食堂改修(フードモール、ぱん・で・らんち)
- ・学生支援センター開設



第二看護科閉科植樹



ぱん・で・らんち



学修支援室(学生支援センター内施設)



学歌・教職員

川崎医療短期大学学歌

作詞 永瀬 清子
作曲 新田 左武郎

若きいのち

一、空すみわたる吉備のひろ野に

あたらし真理^{まなび}の道を求めて

われらははげむ あした夕べに

いたつきいやさん 望みめざして

はばたけ若きいのちのきわみ

二、かおりゆかしく梅咲く園に

ほほえむわれらの 愛のいのりよ

友がき互いに 手をとりかわし

ふくらむ未来の夢ははてなし

のばさん若きいのちのきわみ

三、この世につくす明日をめざして

まなぶは技術^{たくみ}と誠実^{まこと}の心

みどりかがやく なつかし丘に

つどえるわれらの姿は清し

かがやけ若きいのちのきわみ



平成 25 年 3 月 撮影

看護科

NS Department of Nursing

教育目標

豊かな感性と専門的知識・技能を磨く

人の命を支える看護師への期待は、ますます高まっています。本学科では、よりの確かつ柔軟な判断と対応ができ、高い能力を身につけた臨床看護が実践できる看護師の育成を目指しています。



学科開設から 40周年



2 保育園実習（2 年次前期）

2年次の夏に保育園実習があります。元気いっぱい子どもたちとの生活場面や遊びを通して、子どもの成長発達について理解を深めます。子どもたちとの交流経験の少ない学生にとって、子どもの笑顔に癒されるとても楽しい実習です。



入学

入学後に学外研修を行います。



4 臨地実習（3 年次前期）

患者の特徴や状況に合わせた具体的な看護を体験し、必要な援助を計画・実践しています。川崎医科大学附属病院をはじめ、川崎医科大学附属川崎病院、介護老人福祉施設、訪問看護ステーション、精神科の専門病院でも実習を行います。

入学から卒業まで (定員 120 名 修業年限 3 年)



1 上海海外研修（2 年次前期）

毎年、夏休みを利用して看護科教員と希望学生が、上海健康職業技術学院を訪問します。互いの文化や医療・看護について理解を深めます。そして、翌年本学に留学する予定の中国の学生による通訳や案内で、日本の学生との交流が一層深まります。



卒業

人間的に成長し、卒業します。



3 戴帽・授章式（2 年次後期）

戴帽・授章式は、所定の課程を修了後、本格的な病院実習の前に行われる式典で、学生はこれから看護の道へ進む決意を表明します。キャップ廃止に伴い、昨年から最後の戴帽・授章式となりました。今年からは新しいセレモニーとなる予定です。

現在の卒業生数

4,084名

(第二看護科含む)

10 年間を振り返って



看護科 学科主任

中西 啓子 教授

40周年記念の記事を書かせていただく責任の重さをかみしめています。

看護科は「社会において第一線で活躍する看護実践者を育てる」ことを目的として、40年間の伝統を育んできました。40周年までの10年間は伝統を受け継ぎながらも、大きく変革する社会の中で、これからの時代に適応していく看護科であるための試みの連続だったと言えます。

平成17年度の第二看護科の閉科に伴い、平成19年度に「看護科」と改称されたことは、大きな転換点となり、時代の変化やうねりを実感しました。看護科の入学生は、平成12年度には80人、平成18年度には120人へと定員増になり、平成17年度から男女共学となりました。現在では1割強の男子学生が看護を学んでいます。2倍以上に増加した学生たちに看護科の伝統を継承していくには、き

め細かな教育をするためのさらなる発想の転換と工夫が必要となります。2度のカリキュラム改正では、タイトな講義計画の中で効率的に時間を使えるよう、各講義科目のマトリクスを作成し教育内容の漏れや重複がないよう調整しました。実習領域では、対象を尊重する態度を評価の視点に取り入れて、伝統を継承できるよう多くの取り組みを行っています。平成23年度から、川崎医科大学附属川崎病院での実習が開始されました。平成27年の新病院開設に向けて、社会的要請のみならず学園のためにも、より多くの優秀な看護師を養成することが求められています。

看護科教員メンバーは、諸先輩たちの財産を引き継ぎ、個々の持ち味を生かしながら、次の時代に良いパトナタッチができるよう“make change”を続けていきます。



■看護科教員

平成 16 年 6 月



■看護科教員

平成 25 年 3 月

卒業生からの祝辞

川崎医科大学附属病院 看護部長
第1期卒業生 千田 美智子

川崎医療短期大学創立40周年おめでとうございます。

歴史的にも由緒があり（羽柴秀吉軍の進攻に際して守備したといわれる毛利側の松島城の跡地）、緑に恵まれた自然環境豊かな松島の丘に、医療短大が建設されて40年を迎えました。まさに半世紀近くを経たわけですが、この間に医療環境は目覚ましく変化し発展を遂げてきたと思います。保健・医療・福祉の分野にとっては、激動の期間であり、どの専門職の方々も大変な努力を積み重ねてきました。医療短大も昭和48年の開学当時は、第一看護科、第二看護科、臨床検査科の3学科だけでしたが、学科も増えていき、大きく発展してきました。また、松島地区周囲の賑わいには40年の時の流れを感じます。

医療短大の歴史は病院の歴史であり、また、共

に歩んできた川崎医科大学附属病院看護部の歴史でもあります。看護部の発展は、多くの諸先輩の努力の賜物と感謝いたしますとともに、記録にとどめたいと思います。歴代の看護部長は看護科の教授を併任されており、多くの卒業生が学んできました。医療短大を巣立っていった卒業生が、先端医療や看護教育の分野で、あるいは地域医療を支える分野で活躍できるのも、諸先輩のお力によるものと思います。

医療短大の建学の理念は、看護教育ならびに医療の原点になるものとして、これからも評価されることと思います。創立40周年という大きな節目を迎えた医療短大が、諸先輩から受け継いだ伝統をばねにしてさらなるご発展を遂げられますよう祈念いたします。

臨床検査科

MT Department of *M*edical *T*echnology

教育目標

検査と分析が、病を退ける

あらゆる場面で科学技術が応用されている現代医療にあって、臨床検査の重要性は言うまでもありません。本学科では、医師や患者さんから信頼され、現代医療の多様なニーズに対応できる臨床検査のエキスパートの育成を目指しています。



学科開設から 40周年



2 ワッペン授与式 (2 年次後期)

2年次の9月にワッペン授与式が実施されます。ワッペンは学内で基礎的な知識と技術を身につけた証で、臨床検査科のシンボルです。これを左肩につけて、川崎医科大学附属病院、附属川崎病院での臨床(臨地)実習に臨みます。



入学 平成25年度 入学生



4 研究発表会 (3 年次後期)

「臨地実習 I」は問題解決型の学習を実践し、学術研究の一端に触れることを教育目標としています。学生教育に関わる医師や臨床検査技師または本学教員と共に研究課題に取り組み、それらの成果を12月に開催される「研究発表会」で発表します。

入学から卒業まで (定員 50 名 修業年限 3 年)



1 学外研修 (1 年次前期)

入学して間もなく、野外活動施設等を利用して野外炊事やネイチャーワークを実施します。自然に親しみながら学生同士または学生と教員間の親睦を深め、より良い人間関係を築くとともに、集団生活の規律や協調性を養います。



卒業 卒業記念パーティー



3 臨床(臨地)実習 (2 年次後期 - 3 年次後期)

川崎医科大学附属病院および附属川崎病院で約1年間、臨床(臨地)実習を実施します。臨床検査の業務の見学や、各種機器を用いた実践的な実習を行いながら、卒業後直ちに第一線で活躍できるような技術や技能を習得します。

現在の卒業生数
1,930名

10 年間を振り返って



臨床検査科 学科主任

通山 薫 教授

倉敷市松島の丘に立つ学び舎、川崎医療短期大学は創立40周年という節目を迎えます。私自身、前任の松田 信義主任教授の後任として本学へ着任してちょうど10年になります。そこで、この機会に10年を振り返ってみたいと思います。

近年、若者の気風やスタイルが激変しつつある中で、本学臨床検査科は良き職能人を輩出べく伝統と実績を重ねてきました。OBやOGの方々の眼には、最近の学生は自分たちとはずいぶん異なる世代の若者に映るかもしれません。しかし、私のように外部から来た者にとって、本学は数ある大学・短大の中で今でも異色の学風を保っているように思います。制服がその象徴ですが、これも10年のあいだに現代風になってきました。それでもなお、学生諸君はこの制服や実習衣に身を包み、知識・技術だけでなく根気や忍耐も体得しながら

育っています。

その様子を見てただけに、卒業式の夕刻に開かれる卒業記念パーティーで、彼ら彼女らの変貌ぶりに接するのは、毎年の楽しみの一つです。大いにはじけて、騒いで、そして意気揚々と社会へ巣立ってほしいといつも願っています。

学び舎の建物そのものはこれからも大きく変わりそうにはありませんが、臨床検査科は今、世代交代の波に直面しており、教員の顔ぶれが大きく様変わりすることになります。OB、OGの方々にとっては、臨床検査科の「顔」であったような先生方が次々と定年を迎えられていきます。

これからの新たな10年に向けて、今までの伝統と実績にさらなるページを重ねていければと思います。



研究発表会

平成 24 年 12 月



教員集合写真

平成 25 年 3 月

卒業生からの祝辞



松丘会 臨床検査科 支部長
岡山市立市民病院 臨床検査科 病理検査室
第 5 期卒業生 舟田 和幸

川崎医療短期大学創立40周年を心よりお慶びするとともに、輝かしい実績と活動を支えてくれた先生方や諸先輩方のご努力に敬意を表します。これまでに多くの優秀な人材を世に送り出されていることには、出身者の一人として誇りを感じています。

私も卒業して30余年となり、定年も見え始めました。今思えば病院での実習はハードで、緊張にはりつめた毎日を過ごし、厳しいと感じられたことが多くありました。卒業後は岡山市立市民病院に職を得ましたが、病院実習で習得したことがすぐに活かされ、実習の大切さを実感したことを今も覚えています。厳しい諸先輩方の指導のもとで、現場に必要なさまざまなことを教えていただいたことは、本当に感謝しています。

近年、社会の様相は目まぐるしく変化していま

す。少子高齢社会と言われる日本では、医療・看護・介護のありようも大きく変わろうとしています。医療における安全・安心が求められるばかりでなく、効率の良い医療も求められています。私たち医療従事者は、日進月歩の技術に対して高度な専門性を維持し、常に資質を向上させていかなければなりません。

今後も医療短大で学んだという誇りと自信を持って、定年までの残り少ない日々ですが、自ら選んだ道で存分に力を発揮していきたいと思っています。医療短大は創立40周年を迎えましたが、これも歴史の通過点に過ぎません。先輩方の築かれた流れを大切にして、決しておごることなく未来の夢を描き、医療短大の歴史が続いていくことを祈念いたします。

放射線技術科

RT Department of *R*adiological *T*echnology

教育目標

正確な画像とその解析が命を救う

最先端の機器を駆使して、体内情報を画像でキャッチする診療放射線技師は、現代医療に欠かせない存在です。徹底した臨床実習を行い、いかなる技術革新にも対応できる診療放射線技師の育成を目指しています。



学科開設から
36周年



2 授章式 (2 年次後期)

臨床実習開始を許可する証として、一人ひとりにワッペンが授与されます。臨床実習に向けた新たな決意と自覚を促すため実施しています。また、卒業生を迎え、学生時代の体験談を交えた「激励の言葉」をいただいています。



入学 平成21年度 入学生



4 卒業研究 (3 年次)

4月から11月末までの間、小グループに分かれ研究活動を行っています。研究の進め方を学び、その中で探究心を養うことを目的に行っています。11月末には「卒業研究発表会」を開催し、学生と教員の前で研究成果を報告しています。

入学から卒業まで
(定員 50 名 修業年限 3 年)



1 病院見学 (1 年次前期)

大学生活に慣れ始めた6月下旬頃に川崎医科大学附属病院の中央放射線部で実施しています。診療放射線技師の役割と具体的な業務の内容を肌で感じてもらい、診療放射線技師になるという目標の確認と学習意欲の向上を目指しています。



卒業 平成24年度 卒業生



3 臨床実習 (2 年次後期-3 年次前期)

川崎医科大学附属病院を中心に9カ月間実施しています。学内で履修した基礎的な知識や技術を再確認し、さらに実践的な幅広い知識、技術の習得を目的に行っています。また、患者さんへの接遇や医療人としての姿勢・態度も学びます。

現在の卒業生数
1,805名

10 年間を振り返って



放射線技術科 学科主任

村中 明 教授

10年前の平成15年当時は、全国の診療放射線技師養成施設は四年制大学20校、短大4校、専門学校17校でした。現在では四年制大学が28校に増加し、本学が全国唯一の短大になっています。18歳人口の減少と四大志向のため受験生の減少が続いていましたが、1年でも早く資格を取り社会に貢献したいと考える受験生から支持を受け、ここ数年は持ち直しの傾向があり喜んでいるところです。

この10年間に長年本学科教育に大きな役割を果たしてこられた西村 明久教授、松宮 昭教授、梶原 康正教授がご退職されました。さらに第2代主任の今城 吉成教授も平成21年から学長にご就任され（現在は本学顧問）、教員の世代交代が進んでいます。今後はもっと若いスタッフを増やして

学科内を活性化すること、女子学生が半数近くいるため女性教員を増やすことが必要だと考えています。

診療放射線技師が活躍する分野の最近の進歩は著しく、それに伴い教育内容も年々拡大し国家試験も高度化してきています。また、就職においては四年制大学出身者との競争にさらされており、短大である本学科を取り巻く環境は一段と困難さを増していると言えます。学科内では、平成21年度より教育システムが学年制から単位制に変わり、3年次生の留年生が増加するという問題が生じています。次の10年間では、これらの課題を克服し、より社会のニーズに合致した診療放射線技師教育が推進できればと願っています。



■ 研究生（現上海健康職業技術学院）の送別会 平成 16 年 3 月



■ 学科懇親会にて 平成 24 年 9 月

卒業生からの祝辞

川崎医科大学附属病院
中央放射線部 副技師長
第 1 期卒業生 松田 英治

このたび、川崎医療短期大学が創立40周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

私は昭和52年に放射線技術科第1期生として入学しました。今振り返ると、「大いなる情熱」に溢れ平均年齢が30歳にも満たなかった若き先生方の後ろ姿に、私たち1期生は大いなる薫陶を受け、まさに師弟同行によって新しい伝統と科風づくりという大いなる創造を果たしました。国家試験という魔物の怖さを伝えるために、授業のたびに手書きの試験問題を作成し、演習や補習を繰り返してくださった先生方の叱咤激励を懐かしく思い出します。1期生は授業や試験の情報が先輩から得られない反面、自分たちの力で行事や部活動など様々な場面で、新しいものを築き上げていく機会に恵まれました。人間的に魅力ある技師になるた

めにと能登半島旅行を企画し、先生方と共に杯を酌み交わし語り合うことで多くのことを学びました。私は今でも先生方や同窓生と緊密な繋がりを持ち続けています。それは私の財産であり人的ネットワークの広がり の 起 点 ともなっています。

時代が急激な変化を遂げていく中で、医療短大も独自の伝統と文化を築き上げ、そこに息づく師弟魂は、現在の学生の心の中にも脈々と流れていることでしょう。母校で培った魂を、それぞれの人生の糧として、いつまでもいつまでも大切に持ち続けていくことと確信いたします。この創立40周年を契機とし、今後さらなる飛躍を遂げられますよう祈念しまして祝辞といたします。

医療介護福祉科

CW Department of Medical Care Work

教育目標

人は、ひととして生きる

介護に対するニーズはますます多様化・複雑化しています。私たちは優れた教育環境とシステムを活用して、人生の最後まで寄り添いながら、人としての尊厳を保障できる介護専門職の養成を心掛けています。



学科開設から 12周年



2 保護者懇談会（1 年次後期）

1年次の3月、次年度の就職や進学を保護者と共に考えることや、短大生活での様子を伝えることを目的に保護者懇談会を開催します。これを機に学生は、将来の自分について考え、それぞれの活動を開始します。また、多くの保護者が個人懇談も希望されます。



入学

学年の垣根を越えた学外研修実施



4 卒業研究発表会（2 年次後期）

2年次になると「介護福祉総合演習」を履修します。介護に関する興味のある事柄を1年間を通じて研究し、最後に発表、報告集としてまとめます。学生それぞれが数人のグループとなって研究発表することは、これから現場に出ても非常に役に立つことです。

入学から卒業まで

（定員 80 名 修業年限 2 年）



1 介護技術（1 年次前期～）

短大生活が始まって間もなく「介護技術」を学びます。学外実習でも必ず必要になる科目だけに、介助者と介護者役に分かれ学生同士で充分に実習を行います。介護者の尊厳を保ちながら支援することを考え行います。教員もきめ細かな指導を心掛けています。



卒業

介護福祉科1期生の卒業式の様子



3 介護実習Ⅳ（2 年次後期）

2年次の後期に5週間にわたる施設実習が行われます。2年間の短大での学習の総まとめです。個別ケアを行うために、1人の利用者を担当して個別の介護計画の立案と実践・評価をします。また、利用者の状況に応じた専門的な介護技術を習得し、実践力も身につけます。

現在の卒業生数

617名

10 年間を振り返って



医療介護福祉科 学科主任

藤原 芳朗 教授

学校法人川崎学園ならびに地域の福祉法人など、数多くのご支援のもと介護福祉科開設から12年が経過し、11期生が卒業いたしました。学科の名称も平成24年度から「医療介護福祉科」へと改称しました。この10年で我が国は高齢社会を超えて超高齢社会を迎え、介護人材の養成が急務と認識されてきました。しかし、他の医療専門職が主役^{うしな}の存在であるのに引き換え、介護職は脇役^{わきやく}の存在であった感^{かん}は否めません。いつも「人のゆく裏に道あり花の山」と嘯^{うな}き、虚勢^{うせつ}を張りながらも心の中で泣いていたことは事実です。

ところが、2025年問題を前にして、国の方針が在宅医療・地域福祉へと舵^{かじ}を切っている現在、医療介護福祉科に課せられている役割は大きいも

のと考えます。また、WHOの新しい考え方である「健康寿命」（日常的な支援や介護が不要で自立した生活を営むことができる期間）が先進諸国と比較して短い我が国の場合（男性73歳・女性77歳）、脳血管疾患、骨折、転倒、認知症、運動機能障がいなどが短くする原因としてあげられています。今後は、このような状態の高齢者が住み慣れた場所で、本人の心身の状態に即応する形で支援体制を受けることが求められることでしょう。医療的ケアに精通した介護専門職の育成は勇躍として表舞台へと立つ時代を迎えたと言えます。「生きていてよかった。今が一番幸せです」と言っていただけるような高齢者の心に寄り添う医療介護福祉士の時代の幕開けだと確信しています。



障がい者スポーツ大会サポーター

平成 17 年 11 月



医療介護福祉科教員

平成 25 年 5 月

卒業生からの祝辞



社会福祉法人 誠和
特別養護老人ホーム
あじさいのおか牛窓 介護主任
第 1 期卒業生 小福田 卓

このたびは川崎医療短期大学開学40周年を心よりお祝い申し上げます。私は平成12年4月に介護福祉科1期生として入学いたしました。1期生ということもあり、先輩はいませんでした。川崎学園の多くの先生方からご指導を受けることができました。卒業後、恩師の先生が「1期生には何もしてあげられなかった。ごめんなさいね。」と言葉をかけてくださったときも、「授業では、いつも先生の熱意を感じることができました。」と心から答えることができました。介護現場で10年近く勤務していますが、「川短の介護福祉科で良かった!」と強く感じています。

介護福祉士に求められる資質は日々変化していますが、職場や研修会場で後輩の方々にお会いすると、介護に関する新しい情報だけでなく、高い倫理観を持っていると感じます。

近年、介護現場においても大きな変化があり、法改正により医療的ケアの一部を介護福祉士が担うこととなり、医療と介護の連携が一層重要となりました。医療短大の介護福祉科は、平成24年4月より医療介護福祉科となり、いままで以上に医療専門職養成の総合教育を受ける環境が整いました。2年後には医療的ケアの知識、技術を習得した後輩の方々とお会いできることを楽しみにしています。最後に、介護福祉科のOBとして、そして介護現場で働く介護福祉士として川崎医療短期大学のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

医療保育科

NC Department of *Nursing* *Childcare*

教育目標

日本初、医療の専門性を備えた保育者養成

現在、保育現場では、医療知識を必要とする場面が増加しています。本学科は、保育の現場が熱望する「医療」と「保育」の専門性を備えた保育者を養成する、わが国初の学科です。



学科開設から 8周年



2 実習開始式（2 年次前期）

保育所や幼稚園、病棟など、学外での実習を始めるにあたり、後輩や教職員の前で決意を新たにします。代表学生が実習への意気込みを宣言します。式に臨む学生の表情から、実習への意欲の高まりと本科学生としての誇りが感じられます。



入学

桜満開の下、学生生活がスタート！



4 小児病棟保育実習（3 年次）

3年次に「病児保育コース」「発達障害児保育コース」のいずれかを選択します。「病児保育コース」では、小児病棟や病児保育施設で実習します。治療や入院が必要な子どもを理解し、保育計画を立案し、実施、評価します。

入学から卒業まで

（定員 70 名 修業年限 3 年）



1 遊びの体験（1～2 年次）

保育の基礎を講義と演習で学びます。講義では、本学科独自の「小児医療入門」「小児病学」「感染と防御」「病児保育」「発達障害児保育」を通じて保育現場で求められる医療知識を学びます。また、演習の「子どもと遊び」では、遊びを自ら体験し、子どもへの支援を考えます。



卒業

3年間、やりきった顔が揃います！



3 発達障害児保育実習（3 年次）

「発達障害児保育コース」では、保育所、障害児施設、特別支援学校などで実習します。発達に遅れのある子どもに対して運動遊びの支援を行います。一人ひとりの子どもの運動特性を理解し、保育計画を立案し、実施、評価します。

現在の卒業生数

392名

8 年間を振り返って



医療保育科 学科主任

寺田 喜平 教授

医療保育科は、平成17年4月にわが国で初めて設置された、まだ8年足らずの若い学科です。最近、新聞報道などで保育園不足が指摘されていますが、その背景には夫婦共働きが増加し、小さなお子様を預けて働かれる方が増えている事実があります。小さなお子様をお預かりするには、医療知識がどうしても必要です。感染防止対策やその方法、予防接種や初期の救急処置、発達障害児への対応なども知らないとやっていけません。そこで、我々の学科では、保育士や幼稚園教諭として必要な教育だけでなく、小児科の知識や発達障害についても学習し、また心肺蘇生の実地訓練を受けて、卒業後もすぐに役立つ人材を育てています。平成23年からは川崎医科大学附属病院に病児保育

室が設置され、小児科病棟に加えてそこでの実習も開始しました。

お陰様で医療保育を学んだ卒業生が社会から求められており、卒業生は幼稚園や保育園を中心に就職し、約30%が公務員として広く活躍しています。また病院保育士としても全国で活躍し始めています。

社会では幼保一体化など様々な変革がなされようとしています。今後も医療の知識がますます要求されるようになり、医療知識を持った保育士が社会から求められていくことでしょう。我々の卒業生がわが国の医療保育の世界をリードしていくものだと思っています。



■教員集合写真

平成 21 年 6 月



■梶谷 喬先生のご最終講義

平成 25 年 2 月

卒業生からの祝辞



学校法人佐保会学園
奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園 教諭
第 1 期卒業生 竹上 睦美

川崎医療短期大学開学40周年おめでとうございます。私は、医療保育科1期生として入学し、幼少の頃からの夢であった幼稚園教諭となりました。そして、松丘会（同窓会）の医療保育科支部長として活動させていただいています。

卒業してから長い間、松丘会として活動されている先輩方と一緒に会議等に参加することはとても緊張しましたが、先輩方の「もっと川崎医療短期大学を良くしていこう、在学生・卒業生と交流して盛り上げよう」という気持ちを感じました。また、医療保育科の先生方とオペレッタ発表会や同窓会を開催したり、医療保育科主催保育者研修会等の行事に松丘会として参加した際、先生方が医療保育科の今や未来について、とても楽しそうに話されているのを拝見しました。川崎医療短期

大学医療保育科のことを考えて活動される多くの人がいることを知り、私も支部長として何かできることはないかと活動してきました。

私はこの学校・学科で良かった、先生・仲間に出会えて良かった、と思っています。この気持ちを、在学生にも伝え、卒業生にもいつまでも持ってもらえるように活動することが私の務めだと思っています。

いつまでも「川崎医療短期大学大好き！医療保育科大好き！」と、皆さんが言える・思える学校であり続けられるように、これからも微力ながら活動していきたいと思っています。

一般教養



教育目標

教養を身につけ、専門知識獲得に向けての基礎固めを行う

一般教養科目は、社会人として必要な知識と教養を身につけ、医療・福祉・保育の専門分野において高いレベルの学修を実現するための土台作りを目指しています。



一般教養 主任

名木田 恵理子 教授

日本の大学が「広範な教養を身につけるための教育」から「役に立つ教育」「わかる教育」へと方向付けられて以来、本学の一般教養教育も「専門教育への橋渡しとして有用な授業」を意識してきました。教員が教えたいことを教える傾向があったものが、学生にとって今一番必要な知識と学習方略を身につけさせることを第一に考えるようになったのです。特にこの10年間は「ゆとり教育」の影響もあって、本学のような医療福祉系大学においても学生の基礎学力に不安要素が見られるようになり、入学後の「学びの基盤づくり」が喫緊の課題になってきました。それに対し本学では、「共通教育枠」の設置、「リメディアル講座」

の開講、クォーター制の導入など、開講科目の見直しや整理を進め、一般教養教員の意識もカリキュラムもまさに change & change の10年間となりました。

現在一般教養は、すべての学習の基盤となる日本語を始めとする語学教育と、医療系専門科目への導入となる理数系教育、さらに学習のスキルを身につけるための情報技術や統計学、心身両面の発達に欠かせない体育や心理学といった科目に力点を置いています。これからも一般教養教員は、学生の人間的な成長を促進する教養教育の視座を意識しつつ、専門知識修得に向けて役に立つ学びを提供していきたいと思っています。



■文章表現授業



■外国人教師による英語授業



■健康体育授業



■情報科学実習

学科の廃止にあたって

第二看護科 (卒業生1,525名)

元第二看護科 学科主任
宇野 恵子

昭和48年4月の第二看護科開設から平成18年3月末の閉科までの期間は、高度経済成長に続き、医療や科学が大きく進歩し発展した時代でした。また、そのような時代を背景に、看護を科学的・論理的に進めていくという学問としての体系化が図られた時期であり、看護教育にとっても激動期であったと感じます。さらに、急速に進んだ「少子・高齢化」という社会の変化に対応するため、保健・医療・福祉の一元化がはかられました。看護師は、生活者主体のサービスを提供できる人材であることと、資質を向上することが

求められるようになりました。その結果、「看護の基礎教育を大学教育で」という目標が掲げられて看護教育が改革され、単位制の導入と専門性の強化が行われて、看護の大学教育が急増しました。

このような時代の動きを反映して、平成14年度から、高等学校の看護学科と専攻科を合わせた5年一貫過程が設置されるようになりました。第二看護科入学生の90%以上であった高等学校衛生看護科が終りを迎えるために、平成18年3月をもって第二看護科を閉科いたしました。しかし、第二看護科は閉科しても医療短大看護科の「看護の灯」の精神は先輩から後輩へ受け継がれると思います。「看護の灯」が灯し続けられることを願い、

記念碑を設立いたしました。

最後に、医療短大のますますの発展と卒業生の活躍を祈念して、筆をおきたいと思っています。



■第二看護科閉科記念碑(筆者右端)

臨床工学科 (卒業生971名)



川崎医療福祉大学 特任教授
川崎医科大学 名誉教授
梶谷 文彦

川崎医療短期大学創立40周年おめでとうございます。

この機会に医用電子技術科（後の臨床工学科）の誕生の頃を振り返ってみたいと思います。医用電子技術科の開設を提案されたのは川崎 明徳前理事長（当時：副理事長）でした。私は医科大学医用工

学教授をしていました。これから医療の分野に工学技術が入ってくるので医と工を連携する学科を創設しようということでした。ちょうど日本生体医工学会がこの分野の国家資格の設立を厚生省（現：厚労省）に長期間にわたって働きかけている時期でもありました。1986年、川崎先生、望月 義夫学長（当時）などと共に学科の開設申請に文部省（現：文科省）へ出向きました。色々説明、陳情しましたが、初めてのことで理解を得るのは難しく、許可が出ないまま一年が経ちました。幸いなことに1987年6月に臨床工学技士法が突然に公布されて、日本初の臨床工学技士を育てる医用電子技術科の開設許可も下りました。臨床工学技士法の施行は1988年4月で、医療短大医用電子技術科も同時にスタートしました。グッドタイミングです。しかし「医用電子技術科」「臨床工学技士」と言ってもほとんど知られてない状況で、社会的認知度の

低さに受験生が集まるかどうかを大変に心配しました。案ずるより生むが易し、1期生は定員50名に136名もの受験者があり、多くの優秀な学生が入ってきました。入学者の出身地も北は北海道から南は九州までと極めて多彩でした。自然に「君たちはバイオニア、フロンティアだ」という言葉が出ました。

あれから25年経ち、臨床工学科の卒業生は全国各地の病院や企業で、あるいは大学教員、厚労省所管の医療機器の審査委員などとして大活躍しています。とても誇らしく、頼もしく思います。医療短大の臨床工学科は川崎医療福祉大学の学科に移りましたが、これからも脈々と設立以来の伝統が引き継がれていくことでしょう。この分野の守備範囲はますます広く深くなっています。卒業生の皆さんが高いビジョンを持って世の中に貢献されることを期待しております。

通信教育部 医療秘書科 (卒業生890名)



通信教育部 医療秘書科
第7期卒業生 藤田 薫

川崎医療短期大学創立40周年おめでとうございます。早いものですね。かつて

スクーリングに通うために山陽本線の高架をワクワク、ドキドキしながら通った日のことは、今でもその場所を通るたびに思い出されます。

通信教育を卒業された皆様、ご無沙汰しております。私は平成元年3月卒業で、もう25年の年月が過ぎてしまいました。

医療短大の通信教育部では、創生期を形作られた岡田 聚先生、岡田 和子先生をはじめ、多くの先生方にお世話になりました。先生方のお陰で卒業という結果を出せたのだと思います。また、サポート面でいろいろとご尽力くださった事務の故安藤 和昌先生をはじめ、歴代の山根 一夫先生、

河田 義正先生、難波 一衛先生には、同窓生になってからもお世話になりました。先生方のことは強く印象に残っています。この場を借りまして改めて御礼申し上げます。

通信教育部は、もうなくなってしまいましたが、若き日の3年間をこのような場で過ごせたことは、私の人生にとって大きなウエイトを占めています。この大学で過ごせた時間は、自分を見つめ直すのに良い時間だったと思います。ありがとうございます。



事務部長 大高 正憲

事務部は、教務課と庶務課から成り、川崎学園ネットワークの相互連携のもと、本学の運営・教育・学生サポート等が円滑かつ効果的に行われるよう、日々努力しています。

教務課は、主として教育課程や授業、学籍、国家試験、入学試験等に関することを取り扱っています。学業面での学生サポートだけでなく、カリキュラムの調整や授業の準備等、教員に対するサポートも行っており、本学の教育活動全般を支える部署として機能しています。

庶務課は、主として学生生活や学生の福利厚生、就職関係、奨学金、学友会等に関することを取り扱っています。学生が安心して学生生活を送ることができるよう、多方面からサポートを行っています。その他、学園内外の連絡調整等、幅広く取り扱っています。

事務部では、今後も学生の皆さんが安全・快適な環境の中で学業に励むことができるよう邁進してまいりますので、引き続きご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

事務部



事務部集合写真

平成 25 年 5 月



執務風景



学生寮外観



学生寮個室

学生寮

学生寮(女子寮)は、本学敷地内にあり、鉄筋12階建ての北寮と、それに連結した鉄筋7階建ての南寮から成り、合わせて428室の個室が設置されています。本学の校舎や図書館とは廊下続きになっており、食堂や売店も兼備されていて利便性にも富んでいます。さらに、舎監・寮母2組が居住し、日勤の管理人1人と合わせて5人体制で日常の運営に当たっており、寮生は安心感のある寮生活を送っています。

各室は、ベッド、机、クローゼット等が備え付けられた個室で、空調設備が整っています。共同設備としては、洗面所、トイレ、浴室等の他、各階にテレビ付の談話コーナーがあり、インターネットが利用できるパソコン5台を備えた自習室も設置されています。加えて各室には無線LANが敷設されています。

本学の学生の他、川崎医療福祉大学と川崎リハビリテーション学院の学生も受け入れており、大学間の交流の場でもあります。

松丘会（同窓会）

松丘会沿革（2005 年 4 月～ 2013 年 3 月まで）

■2007 (H19)

- ・30周年記念事業の完遂および30周年記念CDの刊行

■2008 (H20)

- ・医療保育科支部開設

■2011 (H23)

- ・東日本大震災に係る卒業生の安否確認および義援金寄附
- ・第五代会長就任、会則改正
- ・第六代学長肖像画贈呈
- ・映像設備および音響設備一式寄贈
(200大講義室、体育館講義室1、2)
- ・会報発行
- ・松丘会ホームページ全面リニューアル
- ・ホームページでの会員管理システムの導入

■2012 (H24)

- ・松丘会記念品ボールペンの作成
- ・フオカードなどに使用する図案を公募、作成
- ・医療秘書科支部と通信教育部医療秘書科支部の統合
- ・第 1 回ホームカミングデー開催

■その他

- ・会員名簿を校正
- ・医療短大球技大会および学園祭に松丘会会長賞を贈呈
- ・医療短大各学科授章式、戴帽式ならびに卒業式に記念品を贈呈
- ・医療短大教育支援として学業、社会活動等に優れた学生に対する表彰、就職支援教育に対する支援



平成 24 年度代議員会



第六代 守田 哲朗学長肖像画贈呈



松丘会記念カード図案の優秀者表彰と図案



医療短大教育支援として、社会活動や学業で優れた実績をあげた学生の表彰

同窓会からの祝辞



松丘会 会長
臨床検査科 第 1 期卒業生
小郷 正則

母校である川崎医療短期大学は、1973年4月に開学し、今年40周年を迎えます。この40年間、同窓会（以下松丘会）は母校の応援団として、いくつかの支援を行ってきました。その一つは、支援金や寄付金などに代表される目に見える応援、そして二つめは社会に飛び立った卒業生たちの活躍という明確に目で見ることが難しい応援です。母校と松丘会との密接な連携による様々な活動は、母校である医療短大の存在価値を社会に示すという効果があります。これからもさらに、母校と松丘会とのつながりをより一層強化することで、双方の活動が活発になり、2倍ではなく3倍以上の強い力が生み出されるに違いありません。

松丘会は、医療短大の三つの理念のもとで共に

学び、巣立った卒業生の集まりです。松島の緑多き丘に立つ母校は、今も健在です。松丘会は、「卒業生によって組織される団体として社会に貢献し続ける」ことを目指して、これからも進んで行きます。そのために、松丘会は、次の五つの企画を実行に移します。

①新入生向けの医療福祉教養講座の大学との共催、②松丘会企画の公開講座の開催、③ホームカミングデーの大学との共催、④学生募集等の全国展開への協力、⑤教育環境充実のための寄付。これらを五つの活動の柱として、今後、なお一層の母校の発展に寄与し、次の50周年につなげたいと願っています。

学友会・協助会

学友会から



平成24年度学友会委員長 看護科3年
友宗 千春

平成24年度学友会委員長を務めました。現在3年次生として臨地実習に励み、レポートや課題に悪戦苦闘しつつ、学びを深めている毎日です。

学友会委員長としての1年間は、新執行部選出に始まり、クリスマスパーティー、新入生歓迎ガイダンス、サークル予算案の調整、学友会総会開催、新入生歓迎スポーツ大会と続き、最大のイベントである学園祭で終わりました。その間、執行部役員が参加する研修旅行や清掃ボランティア活動、東日本大震災復興支援募金活動等も中心になって実施しました。執行部役員は、1,000名を超す学生集団をまとめ、いかにして多くの学生が楽しく有意義な学生生活を送ることができるか考え、試行錯誤を繰り返しました。一生懸命の1年間でした。

こういった苦労と喜びは、歴代の学友会執行部が繰り返し経験してきたことです。会則の第一条

にあるように、学友会は「自治の精神に基づいて、学園の自由、学生相互の和、および教職員との親睦を図り、学生生活の充実及び医療技術の向上と福祉に寄与することを目的として」結成されました。主体は学生ですが、教職員の方も特別会員として加わっており、一体となって行事を運営していきます。これが、学生と教職員とのきずなを強めることにもつながり、本学のよき伝統となっています。

大学の40年の歩みとともに、学友会も成長してきました。現在も学友会執行部は、学生生活をより楽しく、有意義で、充実したものにするべく、学生集団をまとめ、より多くの学生に様々な活動に積極的に加わってもらえるよう、縁の下の力持ちとして頑張っています。今後も、社会性を高め、本学学生としての連帯意識を持つ場として、学友会活動が活発に展開されることを期待しています。



クリスマスパーティー



研修旅行



清掃ボランティア活動



東日本大震災復興支援募金活動



学園祭



学園祭

協助会からの祝辞



協助会 会長
角田 篤司

協助会を代表し、川崎医療短期大学の創立40周年を心からお慶び申し上げます。

さて、協助会は、本学の教育や進路相談、福利厚生活動の円滑な推進に協力することを目的とし、保護者と、趣旨に賛同される先生方で構成する、まさにPTAのような組織です。

学生たちは、将来の医療従事者として、それぞれの国家試験の合格を目指すとともに、実習等で経験を重ね、まさに即戦力として通用する高いレベルの教育を受けています。そのカリキュラムを着実に進めていくために、学生たちも大変な努力をしていますが、協助会としては、学生たちの努力に応えるべく、外部実習や生活指導、進路指導等への助成を行っています。また、福利厚生面で

は、新入生オリエンテーションやスポーツ大会等の行事活動への支援、災害障害保険への加入等を行っております。さらに、施設整備のための基金を積み立て、学生用のロッカーや、ソーラー発電を利用してスマートフォンやノートパソコン用の充電設備を整備することが、本年度の総会で了承されたところで。

今後も、役員一同、学生たちの豊かな大学生活に資するため、尽力してまいりたいと存じております。協助会の諸活動に対し、関係の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、この40周年を一つの契機とし、本学が一層発展されますことを衷心より祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。

上海健康職業技術学院との交流

昭和62年(1987年)の10月に、本学と上海職工医学院(現上海健康職業技術学院)との間で友好大学提携の協定を交わしてから、友好関係が続いています。



■2006年 上海職工医学院(当時)からの訪問団を迎えて 一川崎 誠治副理事長(当時)と共にー



■2011年
今城 古成学長(当時)を団長とする代表团での訪問



■2006年
余 剣珍副院長(当時)らの訪問団が来学



■2012年
上海健康職業技術学院 管理事務職員研修



● ● ● 本学で学んだ研究生・留学生



● ● ● 看護科学生による上海健康職業技術学院への訪問

年間行事

Campus Schedule

●は写真を載せています。

4

- 新入生オリエンテーション
- 入学式
- 保護者懇談会
- 学外研修



新入生オリエンテーション



入学式(入学生代表宣誓)

5

- スポーツ大会(学友会主催)
- 第1回オープンキャンパス
- 親善ドッジボール大会(臨床検査科)



スポーツ大会(学友会主催)



病院見学(放射線技術科)

6

- 学園創立記念日
- 第2回オープンキャンパス
- 病院見学(放射線技術科)



上海健康職業技術学院との交流(看護科)



学園祭(学友会)

7

- 前期定期試験
- 第3回オープンキャンパス



戴帽・授章式(看護科)



介護の日(医療介護福祉科)

8

- 夏期休暇
- 第4回オープンキャンパス
- AO入試前期
- 上海健康職業技術学院との交流(看護科)

9

- 第5回オープンキャンパス
- ワッペン授与式(臨床検査科)
- 授章式(放射線技術科)



オペレッタ発表会(医療保育科)



学外研修



- 学園祭
- 第6回オープンキャンパス
- AO入試後期

10



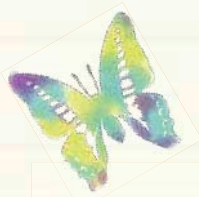
オープンキャンパス

- 戴帽・授章式(看護科)
- 介護の日(医療介護福祉科)
- 卒業研究発表会(放射線技術科)

11



学園祭(模擬店)



- 推薦入試
- 研究発表会(臨床検査科)
- 保育実習成果発表会(医療保育科)
- 冬期休暇
- クリスマスパーティー(学友会主催)

12

- 新年互例会
- オペレッタ発表会(医療保育科)

1



卒業研究発表会(放射線技術科)



- 一般入試前期
- 後期定期試験
- 卒業研究発表会(医療介護福祉科)
- 国家試験(看護科・臨床検査科・放射線技術科)

2



卒業証書・学位記授与式



謝恩会・卒業記念パーティー

- 卒業証書・学位記授与式
- 謝恩会・卒業記念パーティー
- 一般入試後期
- 春期休暇
- 国家試験合格発表

3

平成 25 年度 新入生学外研修

教員や同級生と親睦を深めるため、入学して間もない時期に学外研修を行っています。



医療介護福祉科 研修先:バリアフリー2013[第19回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展] (4月20日実施)



会場(インテックス大阪)前で手にたくさんのカタログを抱えて

看護科 研修先:国立吉備青少年自然の家 (4月20日実施)



ウォークラリーに出発！頑張りま〜す



山道を歩き、草をかき分けゴールしました



自然を満喫し、多くの人と交流できました

臨床検査科 研修先:岡山市立少年自然の家 (4月27日実施)



おいしいカレーを作ります！



慣れないかまどに苦戦しました



ネイチャーワークで自然を満喫

医療保育科 研修先:倉敷市少年自然の家 (4月20日実施)



野外でカレーを作りました！



やっぱりおいしかったです！



初めての人もたくさん話しました！

新任教職員紹介

今年度から本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。



小池 将文 副学長 医療介護福祉科 特任教授
長い間、厚生省で社会保障制度の政策立案に関わってきました。川崎医療福祉大学では医療福祉とは何かを追求しながら社会福祉士の養成に関わってきました。高齢化の進むわが国で、医療介護の重要性はますます大きくなっています。介護保険制度を通じて提供される介護サービスという営みの意義、素晴らしさ、困難さを共に学びましょう。1階の副学長室にいます。相談したいことがあったら訪ねてきてください。



藤井 昌史 看護科 教授
専門的知識の修得だけでなく、多くの人との出会いを通して経験を積み重ね、人の気持ちや立場を理解できる医療人として成長していくことを期待しています。応援しています。



繁光 薫 看護科 教授
3年前から医大総合外科で主に消化器外科（食道外科疾患）に携わっております。外科および救急の基礎が身につくよう、お手伝いできればと思います。医大総合外科・附属川崎病院との兼任のため、ご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、よろしくお願いします。



平口 鉄太郎 一般教養 准教授
一般教養「生物Ⅰ・Ⅱ」を担当します。私たちの周りには様々な生き物がいて、人の病気や医療とも関係しています。授業を通じて生物の基本的な仕組みや人と他の生き物との関わりについて考えてくれると嬉しいです。



山田 順子 医療介護福祉科 准教授
医療介護福祉科での学びは、介護専門職としてだけでなく、子育てや親の介護、自分自身の老後にも役に立つと思います。実習など大変なこともあります。共に学び、考え、介護っていいよねと語り合えたらと思います。



荻田 聡子 医療保育科 准教授
附属病院で小児科医師をしております。実家が保育園（ふたば保育園）で弟が園長をしています。今回、医療保育科のお話がありましたのも何かの縁だと思いました。微力ではありますが、楽しく、そして子どもにやさしい医療を目指して、スタッフの方々、学生さんと過ごさせていただければと思います。



熊野 一郎 看護科 講師
医大・解剖学教室との併任ですが、本学に研究室をいただきました。私が何か役に立ちそうなことがあったら気軽に質問しに来てください。見つからなければメールしてください。



井上 千穂 看護科 助教
本学を卒業後、附属病院の救命救急センターで看護師として勤務していました。患者さんやその家族との関わりの中で感じた看護の魅力を学生の皆さんに伝えていければと思っています。気軽に訪ねてきてください。



玉井 利奈 臨床検査科 助教
病院での勤務経験から学んだ教科書＋αのことを学生の皆さんに伝えていけたらと思っています。また、担当させていただく「生理機能検査学」を皆さんに好きになってもらえるよう、頑張りたいと思います。



古畑 香織 医療介護福祉科 助教
本学を卒業後、介護現場で7年間勤務しました。同じ目標に向かって学ぶ仲間の大切さ、介護の楽しさや魅力を、後輩でもある学生の皆さんに伝えたいと思っています。一緒に頑張りましょう！



桑田 俊明 庶務課 課長
学生の皆さんが安心して学び、“楽ではないけど楽しい学園生活”を送れますよう、応援しています。わからないことがあれば、何でも遠慮なく相談してください。



原田 安博 庶務課 用務員
平成25年1月末より本学で勤務しています。用務員3名共、前職が同じですので肩肘を張らずに勤務することができます。自然豊かな本学の美化に努め、学生の皆さんが少しでも勉強しやすい環境づくりの力添えになるように努力していきたいと思っています。



近藤 徹 機械室 設備技術員
皆さんが快適な環境で勉学、仕事に從事できるよう、陰ながら支えたいと思います。困った事があれば、気軽に声を掛けてください。

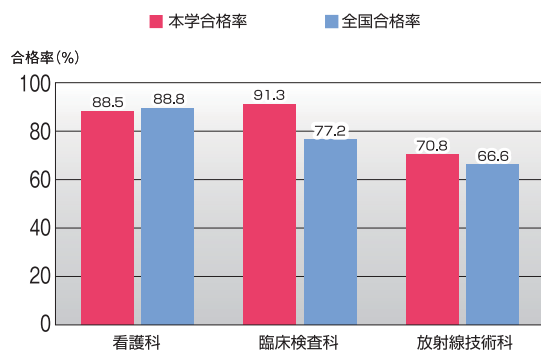
平成24年度 国家試験結果と進路状況

3月末に平成24年度国家試験合格発表がありました。合格率は下図に示すとおりです。

就職については、3月末までで、就職希望者272人に対して、求人件数2,410件、求人数2,409人、就職率はほぼ100%と非常に好調に推移しました。進学については、岡山大学等の国公立大学へ16人、川崎医療福祉大学等の私立大学へ7人、公立短大へ2人、私立短大へ1人、各種専門学校へ3人でした。

各学科の最新情報は、本学ホームページをご覧ください。

平成24年度国家試験合格率



	看護科	臨床検査科	放射線技術科
受験日	2月17日	2月20日	2月21日
発表日	3月25日	3月29日	3月29日

協助会報告

平成25年度 川崎医療短期大学 協助会役員

会 長	角田 篤司 (臨床検査科3年保護者)
副会長	村上 進 (看護科2年保護者)
副会長	山口 恒夫 (川崎医療短期大学学長)
幹 事	安田 君恵 (医療保育科2年保護者)
幹 事	天野 美春 (放射線技術科1年保護者)

平成24年度収支決算書及び平成25年度収支予算書

4月6日の入学式終了後に開催された平成25年度協助会総会において、下表の平成24年度収支決算書および平成25年度収支予算書が承認されました。これにより、今年度も学生の皆さんの学習、福利厚生、学生生活および進路等に関する諸活動についての支援が行われます。

平成24年度 川崎医療短期大学協助会収支決算書

一般会計 (円)

収 入	支 出
会費	10,710,000
雑収入	0
前年度繰越金	6,045,035
	学生研修助成費 3,272,594
	厚生福利費 1,628,312
	学生生活指導費 2,240,930
	進路指導助成費 765,607
	渉外費 100,000
	事務費 405,879
	雑費 7,370
	予備費 40,000
	次年度繰越金 8,294,343
合 計	16,755,035
	合 計 16,755,035

特別会計 (円)

収 入	支 出
前年度繰越金	20,624,302
雑収入 (預金金利)	7,572
平成24年度基金	200,000
合 計	20,831,874
	合 計 0
	差引残額 20,831,874

平成25年度 川崎医療短期大学協助会収支予算書

一般会計 (円)

収 入	支 出
会費	10,500,000
雑収入	0
前年度繰越金	8,294,343
	学生研修助成費 5,520,000
	厚生福利費 1,950,000
	学生生活指導費 2,850,000
	進路指導助成費 1,700,000
	渉外費 150,000
	事務費 480,000
	雑費 10,000
	予備費 6,134,343
	次年度繰越金
合 計	18,794,343
	合 計 18,794,343

特別会計 (円)

収 入	支 出
前年度繰越金	20,831,874
雑収入	8,000
平成25年度基金	200,000
合 計	21,039,874
	合 計 0
	差引残額 21,039,874

※特別会計は、教育実習のための施設設備および学生のために特に必要なものを備えることを目的とした積立金です。

本学同窓会 (松丘会) による学生表彰

本学同窓会(松丘会)は、平成24年度から教育支援の一環として学生表彰制度を開始しました。これは、生活、学業、学内外活動において他の模範となるような学生を評価し、川崎医療短期大学全体の意識を高めることを目的とするものです。

平成24年度は、以下の個人と団体が表彰され、山口学長臨席のもと、松丘会会長 小郷 正則氏 (本学臨床検査科教授) から記念のクオカードが授与されました。



個人の部

学科・学年	氏 名	表彰理由
看 護 科 3 年	関水 千春 石崎 亜紀奈	市長に地域の改善を提案し、 防犯活動の基礎づくりに貢献
看 護 科 3 年	梨木 玲香	東日本大震災復興支援ボランティア活動での貢献
看 護 科 2 年	橋本 紗希	ベトナム、カンボジアでの国際ボランティア活動に参加
看 護 科 3 年 同 2 年	野馬 有祐美 友宗 千春 森茂 敏子	カンボジアの孤児院でのボランティア活動に参加
看 護 科 1 年	目次 真里奈 西村 由衣子 原田 あゆみ	東日本大震災復興支援ボランティア活動での貢献
臨 床 検 査 科 3 年	藤井 陽子	学外模擬試験での優秀な成績
臨 床 検 査 科 1 年	高木 絵利子 岡田 祐枝	前田純孝賞学生短歌コンクール入賞
放射線技術科2年	岩鼻 早紀 佐田 実由季	海外日系文芸祭短歌部門で入賞
放射線技術科1年	松岡 孝洋	前田純孝賞学生短歌コンクール入賞
介護福祉科2年	有家 広美	全国ふれあい短歌大会入賞
医 療 保 育 科 2 年	岡田 早耶香	『心がばかばかするニュース2011』入選
医 療 保 育 科 1 年	重本 桃子 田中 晴菜 吉田 祥子	国見町桜のうた入賞

(学年は、平成24年度のもの)

団体の部

団体名	代表者	表彰理由
学 友 会 執 行 部	学友会委員長 寺井 なゆか	学友会活動においてリーダーシップを発揮し、東日本大震災復興支援募金活動を牽引
ソ フ ト ボ ー ル 部	部長 堤 克英	大会で優秀な成績を収めるとともに、岡山県臨床検査技師会や地域との交流に貢献
写 真 部	部長 香西 亜耶	部活動を通して大学広報に貢献

OPEN CAMPUS 2013



オープンキャンパス 2013 開催スケジュール

第2回 6/23日 13:00~16:00

夢をつかもう
—伝統と実績で応援します—

第3回 7/20日 13:00~16:00
7/21日 13:00~16:00

この夏決めよう!
川崎医療短期大学へ

第4回 8/18日 13:00~16:00

この夏あなたを変える!
—川崎医療短期大学—

第5回 9/22日 13:00~16:00

川崎医療短期大学の入試解剖!!
—きっと見つかる受験対策—

第6回 10/12日 9:00~15:00
10/13日 9:00~15:00

楽しもう学園祭!
実現しようあなたの夢!

学園祭同時開催!

- ◆模擬講義・体験実習・面接・小論文・入試問題の解説、女子寮見学など、豊富なコンテンツ!
- ◆参加された方に入試資料・記念グッズなどプレゼント!
- ◆当日JR中庄駅から往復無料バス運行(第2回~第5回、中庄駅⇔本学体育館)
- ◆駐車場あり(当日無料)



事前申込不要!!

保護者の方や先生方も
お気軽にご参加ください

内容は変更になる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

なお、学校見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。
【TEL】086-464-1033(受付・平日8:30~17:00、土曜8:30~12:00)

平成25年度 第2回公開講座

講座名
「からだの不思議
～存在する空間と働き～」

講師: 熊野 一郎
(本学看護科 講師 /
川崎医科大学解剖学教室 助教)
日時: 平成25年6月23日(日)
10:00~11:30
会場: 川崎医療短期大学 体育館
101教室



申し込み・お問い合わせ

〒701-0194 岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学 公開講座係
TEL: 086-464-1032
FAX: 086-463-4339
Eメール: koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

主要行事 (7月~9月)

7月	10日	医療介護福祉科1年介護実習Ⅰ終了
	//	医療介護福祉科2年介護実習Ⅲ終了
	18日	放射線技術科3年臨床実習Ⅱ終了
	20日	第3回オープンキャンパス(~21)
	25日	臨床検査科3年臨床実習Ⅱ終了
8月	18日	第4回オープンキャンパス
	19日	医療保育科3年小児病棟保育実習(~9/14)
	//	第14期師生訪問団上海訪問(~22)
	20日	看護科2年保育園実習(~23)
	24日	AO入試前期
	26日	看護科3年臨床実習(~9/24)
	30日	AO入試前期合格発表
9月	2日	医療保育科2年保育実習Ⅰ(~11)
	9日	医療保育科3年発達障害児保育実習(~10/31)
	21日	放射線技術科授章式
	22日	第5回オープンキャンパス
	24日	臨床検査科3年臨床実習Ⅰ(~11/28)
	//	放射線技術科2年臨床実習Ⅰ(~2/13)
	25日	臨床検査科フッペン授与式
	28日	本学40周年記念講演
	30日	医療介護福祉科2年介護実習Ⅳ(~11/2)

川崎医療短期大学広報誌 「若きいのち」(81号)

—川崎医療短期大学創立40周年記念号—
2013年6月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

天野 貴司(放射線技術科・委員長)
河邊 聡子(医療介護福祉科・副委員長)
名木田 恵理子(一般教養) 見尾 久美恵(一般教養)
重田 崇之(一般教養) 影本 妙子(看護科)
衣川 菜美(臨床検査科) 中井 靖(医療保育科)
桑田 俊明(庶務課) 小池 香里(庶務課・書記)

写真協力: 二葉写真館

印刷: 友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194 倉敷市松島316

川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話: 086-464-1032(庶務課)

Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ <http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/>

編集後記

本学は、開学から40周年という記念すべき年を迎えました。これまで、10周年ごとに「創立記念誌」を発刊していましたが、今回はその記念の紙面を、広報誌「若きいのち」の中で掲載することになりました。そのため、今回の広報誌は、ページ数を増し紙質にもこだわった品格のある広報誌に仕上がりました。また、記念記事は、「川崎医療短期大学創立40周年記念号」として、40周年への祝辞や30周年から40周年までの10年間の思い出などを、写真を交えながら川崎学園理事長を始めとする代表者の方々にご執筆いただきました。本誌を「創立40周年記念誌」の代わりとしてご覧いただき、いつまでも大切に保管してください。

広報誌編集委員会のメンバーは、昨年度末が任期であったため、新たなメンバーを迎えて40周年記念号の編集作業に臨みました。委員一同、皆さんにいつまでも愛読される広報誌を目標に、記事やデザインにアイデアを出し合いがんばっています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(天野 貴司)

